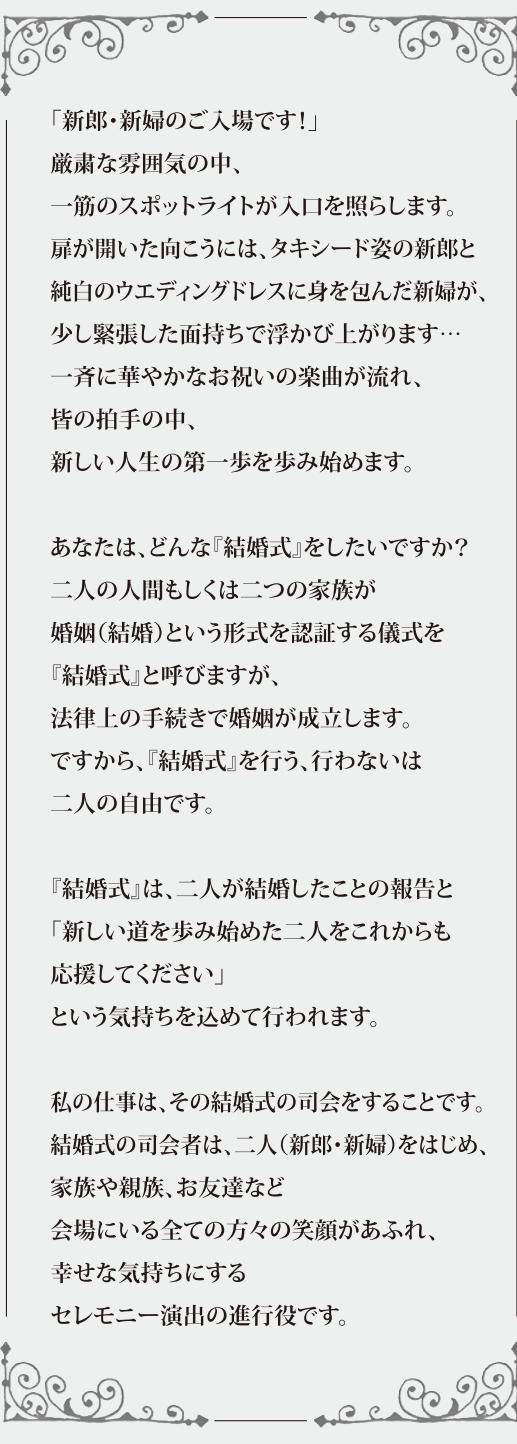


# — 結婚式の司会者 —

高3 保護者



「新郎・新婦のご入場です!」

厳粛な雰囲気の中、

一筋のスポットライトが入口を照らします。

扉が開いた向こうには、タキシード姿の新郎と純白のウエディングドレスに身を包んだ新婦が、少し緊張した面持ちで浮かび上がります…

一斉に華やかなお祝いの楽曲が流れ、皆の拍手の中、新しい人生の第一歩を歩み始めます。

あなたは、どんな『結婚式』をしたいですか?

二人の人間もしくは二つの家族が

婚姻(結婚)という形式を認証する儀式を『結婚式』と呼びますが、

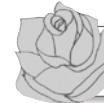
法律上の手続きで婚姻が成立します。

ですから、『結婚式』を行う、行わないは二人の自由です。

『結婚式』は、二人が結婚したことの報告と「新しい道を歩み始めた二人をこれからも応援してください」

という気持ちを込めて行われます。

私の仕事は、その結婚式の司会をすることです。結婚式の司会者は、二人(新郎・新婦)をはじめ、家族や親族、お友達など会場にいる全ての方々の笑顔があふれ、幸せな気持ちにするセレモニー演出の進行役です。



## たくさんのドラマ(物語)があります

司会をしているといろいろなことに出会います。

式寸前に結婚指輪を持ってくるのを忘れたことに気づいた二人が喧嘩を始めました。スタッフから「代わりの指輪をお貸しするので式を進めましょう」の言葉も耳に入らないほどの言い争いです。結局、弟さんが自宅まで取りに帰り30分遅れになりましたが、無事式を行うことができました。

ある時は、再婚のカップルが「前妻の元にいる子供にも祝ってほしい」と招待状を送りました。2時間空席のまま、閉宴間際の誰もがあきらめたその時、制服姿の高校生の息子さんが「来るかどうか迷いましたが、僕はお祝いに来ました」と駆けつけた時は、拍手喝采となり映画のワンシーンのようでした。

このように、予測外のことも起こりますが、お祝いの席にふさわしいフォローで切り抜けていく臨機応変な対応が求められます。



## 仕事の厳しさと喜び

言葉は、一旦口から発するともとには戻せません。結婚式・披露宴のスピーチでは、縁起が悪いので使ってはいけない「忌み言葉(いみことば)」というものがあり、言葉を置き換えます。

「ケーキを切る」⇒「ケーキにナイフを入れる」

「鏡割り」⇒「鏡開き」

「披露宴を終わる」⇒「披露宴をお開き(お披露宴)にする」

最近ではこのような言葉を以前ほど気にする方が少なくなりましたが、出来る限り避けた方が良いでしょう。

私は、打ち合わせの時に、新郎新婦の良いところを見つけて、まず二人を好きになります。大好きな友達の披露宴に参加する気持ちで心をこめてお祝いし、プロとして参列の皆さんが安心して楽しく過ごしてもらえるよう些細なミスもないよう心がけています。司会者にとっては何百組中の一組ですが、本人やご家族にとっては、生涯で一度の大切な一日ですから。

お二人を始め参列のお客様に喜んでいただくことが一番の大きな喜びですが、ピアノ伴奏や音響さんとピタリと呼吸が合った時、1分のくるいもなく予定通りに

進行が進んだ時など、皆で作りあげた達成感で幸福な気持ちでいっぱいになります。例えて言うなら、体育祭や文化祭などクラス全員がまとまった時の達成感とでもいうのでしょうか。

人生で最高に輝くワンシーンの一つのお手伝いができる仕事です。喜んでいただけて、なおかつ自分自身も幸せになれる魅力ある仕事だと思っています。



## どうすればなれるの?

特別な資格は必要ありません。司会者養成所・アナウンスクールの司会者のコース・司会者派遣事務所主催のスクールなど学ぶ方法はいろいろあります。スクールで1年ほど発声練習(腹式呼吸)、発音、早口言葉、ナレーションを覚える勉強をしながら、先輩司会者の現場の隅で見学して覚えたり、アシスタントについて身をもって学んでいきます。ある意味、師弟制度的なところも残っているといえます。

最後にオーディションがあり合格した人の多くは、タレント事務所・イベント事務所・プロダクションやホテル・結婚式場などに所属し、そこから仕事が割り振られる仕組みです。もちろん、フリーで活躍する司会者や昔テレビのアナウンサーだった、ラジオのDJだったという先輩も多くいらっしゃいます。



## どのような人が適している?

私は、今から考えると小学校の時から朗読は唯一先生に褒めていただける得意分野でした。また、学生時代にクラス代表や生徒会など人前で話す機会が多かったことも、この仕事を選んだ背景かもしれません。確かに、司会者の仲間には、恥ずかしがり屋さんはいませんが、自己主張の強過ぎる人もおりません。なぜなら、この仕事は華やかに見えますが、あくまで主役は結婚した二人(新郎新婦)であり、司会者はその主役の人生最高の一日を演出する黒子ですから。

また、コミュニケーション能力も必要です。『披露宴』を進めるためには、幾人もの重要なスタッフがいます。会場責任者・コーディネーター・ピアノ演奏者・カメラマン・

介添え者・配膳係など表に見えるスタッフだけでなく、音響係・照明係・美容師や料理人など多くの人が、2時間30分のために自分の仕事を責任を持って進めていきます。『披露宴』は、司会者だけで作り上げることはできません。まわりのスタッフとの協調をもった連携プレーがとても大切となります。



## 美しい声より音の無い時間が大切?

あなたは、テレビなどで司会者を見る機会があると思いますが、はたして司会者は一様に良い声でしょうか?マイクに通り易い声、聞き取り易い声、心地よい声は有利ですが、これは発生練習やボイストレーニングで訓練することができます。もちろん、声の高低、強弱も大切です。

その中でも、司会者には何も発しない時間『間(ま)』が一番のポイントとなります。司会に限らず漫才や俳優など名人と呼ばれる方は、会話の中に天性の素晴らしい『間』があります。たて板に水のような流暢な話し方より、『間』を取ることによって、より聞き易く、説得力をもって相手の耳に届きます。わずか0.5秒にも満たない『間』を意識して話してみてください。あなたの言いたいことが、より相手に伝わることに気づくでしょう。



## より活躍の場を広げて

人生最大の晴れ舞台のお手伝いをする「結婚式の司会」は、皆さんに喜んでいただけるやりがいのある仕事だと思います。若いあなたの方は、外国のお客様がいらっしゃる結婚式やイベントの英語司会、企業の式典の司会、ファッションショー・映画発表会見の司会など、より活躍の場を広げて目指してみてはいかがでしょう。

